

まさお  
槇尾のサルとちえくらべ

むかしむかし、善正ぜんしやうから滝畑たきはたまでの山道やまみちに、入ひと  
まねをするサルがおりました。サルは人ひとをからか  
うのが大好きだいすで、山越えやまごをしようとする者ものがいる  
と、かならず、そのあとをつけてきました。  
人ひとが三歩さんぽすすめば、サルも三歩さんぽすすみ、人ひとがと  
まれば、サルもとまります。



大勢おおぜいで山越やまこえするときはいいのですが、ひとりひとりで山越やまこえをするときは、みんなこま困こまっていました。

あるとき、ひとりひとりの男おとこが山道やまみちを歩あるいていると、いつものようにサルがあとをつけてきました。男おとこはサルを追おい払はらおうと、足元あしもとにあつた小石こいしを拾ひろい、サ  
ルにむかつて投なげました。

するとサルはおどろいて男おとこからはなれましたが、すぐすぐにまねをして、足元あしもと  
の石いしを拾ひろい、男おとこに投なげつけてきました。

男おとこはあわてて石いしをよけ、走はしってサルから逃にげだしました。

しかし、おもしろがったサルは男を追いかけながら、足元の石を拾いつつ、ぎつぎに投げつけてきました。

なんとか、人里までおりてきた男は頭をかかえました。  
帰日も同じ道を通って帰らなければなりません。

またサルがあらわれて、男のあとをつけてくるかもしれない。  
男は一晚考えて、里を出る前にいくつかの小石を懐や袂にいれて歩  
きだしました。

気になる続きは



TRC和泉図書館 TRCシティプラザ図書館

TRC北部リージョンセンター図書室

TRC南部リージョンセンター図書室にて

絶賛販売中！

定価500円（税込）